

まきどき・植えどき・収穫どき
どきどき情報3月

生産者情報コーナー

組合員の皆さんの実践例を載せ、参考にさせていただくコーナーです。今回は、あさつゆに鉢花などを出荷している委託会員の手塚さんの栽培記録の中からアジサイをご紹介します。

あさつゆ直売センターに出すようになり、お客様の声が直接聞けることで、売れ筋商品が見えてきた気がします。安ければ何でも売れた時代は終わり、愛らしさ・可憐さ・癒されるものへと変化しているようです。工場・オフィス・商店で忙しく働く人達、また介護を必要とする人達、全ての人達が癒される商品として植物が大きな役割を果たすのではないのでしょうか。昨年良く売れた商品の中から抜粋し栽培方法をご紹介します。（上田市 中央 手塚明秀）

●アジサイ 型状 8寸鉢(3本植え) 5寸鉢

◎売れた理由・・季節感がある。庭に植え毎年花を楽しめる。南側、北側でも育ち管理が楽。

◎栽培管理

- ・8月中～下旬頃に今年伸びた枝を2節づつ切り、葉を2/3カットする。さし箱(育苗箱)に赤玉土(小粒)鹿沼土(小粒)の混合土をいれる。カットした葉が重なる位密に挿していく(2cm間隔)1箱 100本位。
- ・1ヶ月ぐらい雨の当たらない日陰において乾燥させないよう時々葉水をかけてやる。100%根がでます。(注意点としては、切り口がつぶれないよう良く切れる剪定バサミを使用する。切り口が潰れた挿枝は腐ってしまいます。葉からの蒸散を防ぐため葉を2/3カットする。)
- ・10月上旬に3寸ポットに仮植し、凍らないよう1～5度ぐらいのハウス内で春まで休眠させます。休眠中も乾燥させないようにします。4月中旬一斉に新芽が出てきます。10cm位伸びたら5寸鉢に定植します。
- ・7月上旬には2～3本に分枝し、新芽の中心に花芽が付きます。分枝しない1本枝は大鉢の寄せ植え用に使います。
- ・用土は、赤玉土(小粒)2、赤玉(中粒)1、砂2、ピートモス3、腐葉土1、パーライト0.5、くん炭0.5 中日本有機入化成 30号(10-10-10)0.05 オルトラン粒剤(アブラムシ防除) 但し、ブルー系の花は、くん炭を入れません。硫黄を入れ pH5.5位の酸性土にします。ブルー系の花でも石灰をいれ pH7.0ぐらいにすると鮮やかなピンク色になります。
- ・防除は、アブラムシ、ダニ、アザミウマ等が付きまますので、アクタラ顆粒水溶剤、殺ダニ剤を散布します。
- ・追肥は、旭化成ポース16-16-10の300倍液を2回、灌水を兼ねて与えます。

野菜の作業

種まき・定植	栽培のポイント
<p>播種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホウレンソウ ・コマツナ ・ブロッコリー ・シュンギク ・チンゲンサイ ・ニラ(株分けも) ・サヤエンドウ ・パセリ ・セルリ ・キャベツ、レタス ・ニンジン ・露地用果菜類、シソ 等 <p>植え付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バレイショ ・ウド、ミョウガ 	<ul style="list-style-type: none"> ●育苗中の温度管理 3月も気温の高い日が続く予報です。換気をこまめにし、日光に十分にあって、灌水は朝方行い夕方には床土表面が乾く程度にします。 ●追肥 <ul style="list-style-type: none"> ・タマネギ 3月から生育が回復し、肥料の吸収量が多くなってきます。追肥は3月上旬と中下旬の2回に分け1a当り野菜用の追肥肥料を4kg施用します。遅い追肥は貯蔵中の腐敗を増加させるので、3月中に終らせませす。 ・ニンニク 茎葉の生育が旺盛となる4月頃から肥料の吸収量がおおくなります。追肥は、3月下旬から4月末までに、2～3回にわけて1a当り野菜用の追肥肥料を4kg施用します。 ・アスパラガス 萌芽前～収穫中にアスパラすくすくを1aあたり4kgを施用します。

セル成型育苗の使用トレイと育苗の目安

品目	使用トレイ	育苗日数	葉数
レタス	200穴、288穴	20～25日	3.5葉
キャベツ	128	30～35日	4
ブロッコリー	128	30～35日	3.5葉
チンゲンサイ	128	40日	3.5～4
アスパラガス	200	20～25日	2.5～3
トマト稚苗	128	70～80日	茎2～3
ナス稚苗	200	20～25日	2
	128	35日	2



専用の用土（ポリソイルシリーズ、与作など）を使用。N成分が異なっているので、品目に合わせて選ぶ。低温期や果菜類はN成分の多い物を使用する。用土は、一旦乾くと水をはじいて水分を含みにくくなる。育苗期間が長くなるとセルの中で根がとぐろを巻きその後の生育が悪くなります。

アピオス(アメリカホドイモ)ーロメモ



アピオス(アメリカホドイモ)はツル性のマメ科の植物。原産は北米。ネイティブ・アメリカンの栄養源として食されていたといわれています。日本には明治の頃に青森へ輸入されたリンゴの苗木に種がついてきたことで伝わったとされています。東北地方の農家では、産後や病後の栄養補給に食べられていました。根は細長く地中を這い、地下茎が数珠玉状に肥大した芋(2～4cm)を食用とします。塩茹で、バター炒め、油で揚げる・・・むかごと同じような味です。カルシウムやビタミンE、イソフラボンが多く、鉄分や繊維質に富むといわれ、健康食品としても注目されています。栽培は簡単で、イモのままでも越冬します。蔓性なので、ネットや支柱に絡ませて栽培します。



農業豆知識

質問コーナー

有機物の補給や連作障害の回避、病害虫防除のために利用できる作物について教えてください。

前回に続いて、今回は共栄作物についてお知らせします。

一緒に育てることによって栽培上有効に働く植物で、コンパニオンプランツとも言われ、相性がよいと言われている組み合わせがあります。しかし、全てが科学的に実証されているものではありませんので、試してみてその効果を確認してみてください！

コンパニオンプランツの主な効果は①病害虫の発生を抑制する。益虫を呼び寄せる。害虫を寄せ付けない。②生育を促進する等といわれており、一緒に栽培(混作、間植)したり、輪作の中に組み入れて栽培します。病害虫の抑制はハーブ類で効果の強いものがあります。

●ハーブ類の利用

ウリ科、ナス科野菜 + ネギ、ニラ・・・土壤病害の抑制、害虫の忌避

ダイコン、キュウリ、カワラナ、ナス科作物 + マリーゴールド(アフリカ)・・・線虫被害軽減、害虫の忌避

トマト、アブラナ科野菜 + ミント、ナスタチューム・・・アブラムシの忌避

●相性の良い作物同士の組み合わせの例

トマト、アブラナ科野菜 + セルリー・・・モンシロチョウの忌避

ブロッコリー + カリフラワー・・・キンカク病の抑制

トウモロコシ + インゲン・・・害虫忌避

キュウリ、キャベツ + インゲン・・・生育促進

ゴマ + サツマイモ・・・ゴマの生育促進

パセリ + トウモロコシ、トマト・・・トウモロコシ、トマトの生育促進

アブラナ科 + ホウレンソウ・・・アブラナ科がホウレンソウの萎ちょう病予防

●相性の悪い作物同士の組み合わせの例

ニンニク、ネギ、タマネギ × マメ類・・・マメの生育を阻害

サツマイモ × サトイモ・・・サツマイモ後のサトイモの生育を阻害

ジャガイモ × エンドウ・・・ジャガイモ後のエンドウの生育を阻害

作物の生育が進んでいます。作業が遅れないようにするとともに、凍霜害対策の準備もしておきましょう。

※注意！！ 混植した場合、完全に無農薬栽培であれば両方の作物が収穫できますが、農薬散布を行う場合は両方に登録のある農薬を散布するか、メインの作物を優先し他の作物は犠牲にしなければなりません。

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター
櫻井主任企画員 (TEL 25-7157)